

幸せな生き方・働き方

11月23日(月)は勤労感謝の日です。国民の祝日に関する法律に、「勤労をたつとび、生産を祝い、国民がたがいに感謝しあう」という趣旨が書かれています。そして、日本国憲法には、「教育の義務」「勤労の義務」「納税の義務」の三大義務が国民にあると書かれています。「勤労の義務」といっても働かなくても処罰されることはありません。お金に不自由していないから働いていないという人もいるでしょう。では、なぜ「勤労の義務」があるのでしょうか。その答えを考えるヒントが書かれていて、今話題になっているのが「なぜ僕らは働くのか」という本です。不登校になった東京の私立中学校2年生の男子生徒が、広島市の公立中学校に転校してその生活をやり直す過程で、働くことの意義を学んでいくという設定でこの本は書かれています。「なぜ僕らは働くのか」の本の内容の一部の要約を紹介しましょう。

私たちは誰かの仕事に助けられて生きている。誰かの役に立つことが仕事になる。日本国内だけでなく世界中は仕事でつながっている。助け合いで作られている社会の一員になるために働く。そして、生きるには多くのお金が必要で、お金を払うということは「仕事をしてくれてありがとう」の意思表示でもある。生きるために必要なお金を稼ぐために人は働く。さらに、人は誰かの役に立つことでうれしさを感じることができる生き物である。仕事でうれしさを感じることで人間は大きく成長できる。やりがいを感じ、豊かに生きるために人は働く。

お金があればそれに応じて幸せになるものではない。心豊かで幸せな働き方をするためには、①好奇心、②持続性、③柔軟性、④楽観性、⑤冒険心が大切である。今の自分を精いっぱい生きる。自分の人生をどう生きたいかと真剣に考えるのが大人の入り口である。若い人が幸せな生き方・働き方を考えるとき、ほかの人と比べるのではなく自分で決め、人からどう思われるかを気にしすぎないことが大切だ。自分の人生に責任を持つのは自分だけだと気づき、自分が自分の人生を作るのだと覚悟をすること。そして、自分のダメなところを見るより、できることに注目し、挫折や困難が人を強くやさしくすると考える。自分に自信を持って生活することがその人の未来を切り拓く第一歩である。 「なぜ僕らは働くのか」(池上彰監修 学研プラス)

誰かの仕事でできている社会で暮らしていく私たちが、社会を成り立たせるために自分もできる限り参加すべきで、仕事をするのが重要な社会参加であるという考え方は、勤労を義務とみなす考え方と共通するものがあると思います。つばさ教室の学習ルームに「なぜ僕らは働くのか」の本を置いてありますので、興味のある人はぜひ読んでください。

子どもを知り、心を育てる

10月2日(金)臨床心理士・公認心理師のマーシャル理恵子先生を講師にお招きして、つばさ教室保護者講演会を実施しました。「子どもを知り、心を育てる ～子どもの心・身体・脳～」というテーマで、子どもの可能性を引き出すためにできることを、わかりやすく具体的に話していただきました。つばさ教室の指導員や相談員にとってもとても貴重な話となりました。今後も信頼関係を土台とした指導を行い、よいところを見つけてほめることで、「よい人間でありたい」と子どもが思うような関係性を作っていきたいと思っています。マーシャル先生の講演の主な内容を掲載します。

子どもを知り、心を育てる ～子どもの心・身体・脳～

親と子の受け答えやスキンシップが親子の愛着関係を生み、子どものコミュニケーション能力の形成に大きくかわる。二次性徴の時期になるとホルモンの関係で感情が不安定になり、安定するのは20代になってからである。ストレスがかかり対処できないと、感情が不安定になるなど様々な問題が起こる場合がある。問題が起きた場合、家庭が安全な場所となり、親子の愛着関係を安定させることが重要である。具体的には①家庭が自分を守り、家庭が応援してくれる場所となる、②スキンシップをとる、③子どもの心に寄り添って受け答えをする、④子どもへの対応を一貫させたりするなどが挙げられる。怒鳴らず激怒せず子どもの行動を改善するいくつかの具体的な方法を身に着けることで子どもとの信頼関係の土台を作ることができる。

思い出に残るバス遠足

10月22日(木) 『校外活動を通して、普段の生活では体験できない様々な経験をする』という目的で、新江ノ島水族館へバス遠足に行きました。今年は新型コロナウイルス感染防止のために、個人の外出や学校の行事などが実施できなかった中での実施なので、貴重な経験をすることができました。「なぎさの体験学習館」で体験学習のプログラムに参加して、その後、水族館でイルカショー見学を始めとして、いろいろな水生動物の見学をしました。心配していた天気も曇りから晴れになり、遠足日和になりました。



行きのバスの中では先生方が考えたクイズ問題で盛り上がり、あっという間に江の島海岸に着きました。すぐに、砂浜に出て穏やかな海を見ながら、波打ち際で小さな貝殻を拾いました。白やピンクの貝殻を拾って大切に持って、近くの「なぎさの体験学習館」へと向かいました。

体験学習の一つ目は、グループごとに、目の前の海水の入ったボールに入れてもらったヒトデ・ナマコ・ミズクラゲを触ったり、見たりしました。「やわらかい。」「初めてさわった。」「ここが口なんだ。」と言いながら海の生物の不思議さに出会いました。二つ目は、貝殻やシーグラスをびんに入れてアロマキャンドル作りをしました。小さなびんの中にきれいな海の底の世界ができました。大切にお土産に持って帰りました。



新江ノ島水族館では、全館回りながらクイズに出ている魚やクラゲを探していきました。イルカショーでは少し早めにいき、小学生の子は先生といっしょにプールで泳ぐイルカの近くに行ってみていました。イルカのジャンプを何回も見て、その体の大きさやジャンプの高さに何度も歓声をあげていました。また、ウミガメやペンギンの赤ちゃんを近くで見て「かわいい、かわいい。」という声があがりました。

帰りは、疲れてバスの中で眠っていた子が多かったです。渋滞で午後4時過ぎに着き、最後はみなと科学館の奥のスペースで解散式を行い、思い出をたくさんもって帰りました。楽しいバス遠足の1日でした。

==== 11月の予定 ====

外国語活動	11月 4日(水) 11:00~12:00	11日(水) 13:00~14:00
	18日(水) 13:00~14:00	25日(水) 13:00~14:00
体育活動	11月5日(木)、10日(火)、12日(木)、17日(火)、19日(木)	
	24日(火)、26日(木)	

※中学校の定期考査が行われる場合、中学生は体育活動を行わない日があります。

みなと科学館体験	11月27日(金) 港区立みなと科学館でプラネタリウム学習、ミニサイエンスショー見学、工作体験をします。
----------	--